

## 2 深 さ

昭和49年8～10月にかけて沖縄島の7ヶ所のアジモ場について、その水深と主なアジモの種類を調査した。その結果を表-11にまとめた。

表-11

アジモの種類と水深

場 所	水 深	主なるアジモの種類
恩納村屋嘉田	+0.8 ~ -1.0	リュウキュウスガモ・ベニアマモ
読谷村残波	+0.4 ~ -0.2	リュウキュウスガモ・ベニアマモ・コアマモ
糸満市喜屋武	±0.0 ~ -0.2	リュウキュウスガモ・ベニアマモ
名護市瀬嵩～汀間	±0.0 ~ -0.3	コアマモ
知念村志喜屋	-0.4 ~ -0.6	ボウバアマモ・リュウキュウスガモ・ベニアマモ
名護市嘉陽	-0.6 ~ -1.8	リュウキュウアマモ・ボウバアマモ
勝連村津堅	-0.5 ~ -5.5	ボウバアマモ・マツバウミジグサ

(水深は潮位基準面から-1 m単位)

リュウキュウスガモとベニアマモはよく混生し、生育水深はともに+0.8～-1.0mの範囲にある。コアマモは潮位基準線附近にしか見られなかった。ボウバアマモとリュウキュウアマモもよく混生し、本県下に生育するアジモ類の中では深度分布は深いようにみうけられた。これまでの調査から最も深所に形成されたアジモ場は、津堅島地先の深さ-5.5 mのボウバアマモ群落であった。

## 3 深さと照度

「アマモは一般に水中照度の高い所を好み、分布深度限界は多くの場合3～4 mである」と言われている(菊地1973)。沖縄島におけるアジモ場の深さと照度との関係を見るため、津堅島地先と主試験地屋嘉田の両モ場において照度測定を行なったところ、図-23のような結果を得た。

これから海水の透明度とモ場の生育下限の間には正の関係がみられ、その下限は本測定条件下照度では約3万lxに一致している。

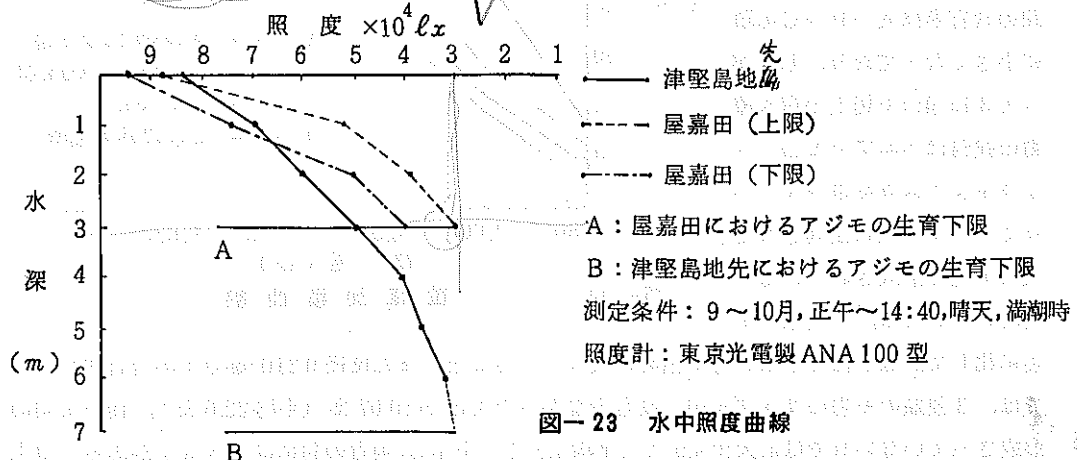


図-23 水中照度曲線